

ソフトパワー大国日本



前駐ブラジル大使
島内 憲
Ken Shimanouchi

昨年退官するまで40年間外務省に在職し、そのうち半分強を海外で過ごした。4大陸の6カ国で計9回の在外勤務をし、いろいろな経験をしたが、「日本という国は、本当に評判のよい国である」というのが長い外交官生活で得た最終的結論のひとつである。

何が評判よいかといえば、まじめで平和的な国のあり方と日本人の礼儀正しさ、勤勉さである。「愚直すぎるので、欧米人に見習って、もう少しうまく立ち回るべきではないか」との意見もあるが、実はそういう不器用なところも多くの国で好かれている。政府、民間を問わず、日本人らしい地味な仕事の積み上げを通じて、世界の多くの国で絶大なる信頼を勝ち得てきたのである。これは、長年にわたり、オールジャパンで築いてきた国の財産であり大事にしなければならない。

わが国では、政府開発援助（ODA）という、目の敵にされることがあるが、わが国に対する高い評価を築くうえで大きな役割を果たしてきた。その他の政府系機関の活動もしかりである。「受け取る側のニーズと気持ちをよく理解してくれる」「上から目線でない」とすこぶる評判がよい。東日本大震災に際して、最貧国を含め多くの開発途上国から救助隊の派遣や義援金の送金があったのはなぜか。私は、わが国

が開発途上国の発展に本当に役立つことをしてきたからである、と考える。そういう意味で、大震災後に政府開発援助予算が逆に削減されてしまったことを残念に思っている。

私が最後に勤務したブラジルは、世界の親日国の本家本元である。その理由は、世界最大の日系社会の存在と長年の官民協力の歴史にある。これまで、ブラジルの日系社会は、幅広い分野で国造りに大きく貢献してきた。現在、多くの日系人が各界に進出し、トップエリートとして大活躍している。ブラジルはこのような「内なる日本」を通じて日本のよさを目の当たりにしてきた。1950年代のウジミナス製鉄所から現在の地デジ放送に至るまで、さまざまなプロジェクトにおける両国官民の協力も大きな成果をあげ、わが国に対する絶大なる信頼感を育んできた。

もとより、親日国はブラジルだけではない。他の多くの国でも、日本人は、持ち前のまじめさをもって、きりと光るよい仕事をし、尊敬を勝ち取ってきた。最近、わが国全体で悲観論が蔓延しているが、もっと自信をもってもいいのではないかと。日本は世界でトップクラスの科学技術力をもっているだけでなく、ソフトパワーでも超一流であることを忘れてはならない。